

新技術・情報名	豚脂肪品質の改善について		推進部会名	畜産(豚)
実施場所	岐阜畜試・三重農技センター・愛知農総試	分類	※①	

1. 成果の内容

1) 技術・情報の内容及び特徴

輸入穀物で最も養分単価の安いとうもろこしを多量に配合した飼料を給与し、肥育した豚肉の脂肪品質について検討し、二三の脂肪品質改善法を明らかにした。

- (1) とうもろこし85%配合の飼料(TDN77.9%・DCP11.5%)でLWD・LWHの肉豚を肥育(40~105kg)しても軟脂豚は発生しなかった。
- (2) 性別により脂質に差が認められ、季節によっても脂質に差が認められた。
- (3) 冬期向に肥育された、子肉豚で背脂肪が薄く、産肉能力の高いものに、脂肪がやや軟かく、しまりに欠けるものが見られた。
- (4) とうもろこしをマイロで置換えて脂質改善するには、マイロの価格がとうもろこしの価格より安価な場合に限ること。
- (5) 大麦を利用(肥育期間65~105kg)する場合は、配合割合を30%位にし、むやみに配合割合を大きくしないこと。
- (6) 現在、安価に入手できるキッサバ20%・大麦10%を配合しても、改善効果が見られ発育も良好であった。
- (7) カボック粕3%の添加では、脂肪が硬化しすぎた。肥育前期(40~65kg)に3%の添加を行えば、その効果は緩和されるが、と殺時まで持続するので、カボック粕を利用する場合は肥育前期に添加するのが効果的である。

2) 技術・情報の適用効果

養分単価の安いとうもろこしを大量に利用できるため、生産原価の低減が図れる。

3) 適用範囲

自家配合飼料で肉豚を肥育している養豚農家全てに適用できる。

4) 普及指導上の留意点

購入できる原料等により、栄養バランスを補正する必要があったり、疾病や冬期間の畜舎環境が脂肪品質に影響を与えるため、これを併せて指導する必要がある。

2. 具体的データ

1) 試験成績

項目 試験区	一日平均 増体重	背脂肪層の 厚さ(平均)	脂肪審査 得点	背脂肪層内層脂肪		
				リノール酸 含量	屈折率	リノール酸 ステアリン酸
1区	775.0±80.9 ³⁾	2.94±0.94 ^(mm)	772±1.1 ^(点)	13.3±1.3 ^(%)	60±8	0.87±0.17
2区	776.7±84.6	2.91±0.49	78.1±1.2	12.9±1.5	59±7	0.83±0.13
3区	761.7±78.3	2.79±0.37	79.1±1.7	11.8±1.0	56±7	0.75±0.10
4区	764.7±70.8	2.83±0.35	81.5±1.1	13.9±1.5	53±8	0.87±0.11
F検定	N.S.	N.S.	※※	※※	※※	※※
Tukey 検定	1 2 N.S.	1 2 N.S.	1 2 ↕ ↕ ↗ ↘	1 2 ↕ ↕ ↗ ↘	1 2 ↕ ↕ ↗ ↘	1 2 ↕ ↕ ↗ ↘
	3 4	3 4	3 ↔ 4	3 ↔ 4	3 ↔ 4	3 ↔ 4
全	828.7±45.0	3.08±0.30	79.9±1.8	12.0±0.7	55±6	0.70±0.08
♀	710.3±41.5	2.65±0.36	78.0±1.8	13.9±1.4	60±8	0.86±0.13
F検定	※※	※※	※※	※※	※※	※※

注 ※※ P<0.01 ↔ P<0.01 ←--→ P<0.05
屈折率の数字は1.45__の小数点以下3位・4位の数字である。

各試験区は肥育前期(40~65kg)にとうもろこし85%を配合した飼料を給与して、その後肥育後期(65~105kg)に下記のとおりの飼料で飼育直しをした結果である。

1区	2区	3区	4区
とうもろこし85%	とうもろこし56.5% 大麦 28.5%	とうもろこし28.5% 大麦 56.5%	とうもろこし82% カボック粕 3%